

ラボ検査技術 OJT トレーニング：PCR 検査技術の更なる向上のために
(2022 年 9 月 9 日)

医師が患者への適切な治療を考えるにあたり、大きな役割を果たすのが各種検査。これがきちんと実施されることは、正しい治療への第一歩となります。プロジェクトが実施する検査、特に力を入れて取り組む薬剤耐性検査業務も正にその一つです。今回は日本の国立国際医療研究センター（NCGM）、エイズ治療・研究開発センター（ACC）から研究員の林田専門家がハノイまで渡航し、様々な薬剤耐性検査に関するトレーニングを改めて行うと共に、日頃のプロジェクト血液サンプルでの PCR、遺伝子検査でみられた課題について改善を試みました。これまでもオンラインでの議論や、ベトナム側検査技師の訪日研修などはありませんでしたが、林田専門家がハノイに来るのは、長らくのコロナ禍による渡航困難時期を経て、約 3 年振りです！

まずは林田専門家から、HIV ウイルスの PCR、遺伝子検査、そしてそれら遺伝子検査結果の系統樹分析などについて、基礎的な理解を改めて講義してもらいました。個々のウイルスの変異を見極め、薬剤耐性の有無に合わせて適切な薬を提供することはもちろん、遺伝子配列を明らかにすることにより、変異したウイルスがどのタイプに属し、どのような経緯で変異してきたかを推定することができます。ここで新たな変異を確認することで、HIV ウイルスの変異の在り方に関しても光を当てることができます。



講義が終わると早速実践。実際に PCR、遺伝子検査を行いながらの OJT に入ります。プロジェクト・カウンターパートである国立熱帯病病院（NHTD）の面々に加え、今回はベトナムの中でも遺伝子検査の経験が多く、JICA との協力関係も長い国立衛生疫学研究所（NIHE）の HIV/AIDS 検査室からも参加を得て、実際の OJT を通じて、様々な技術的な議論を行いました。

検査室での作業は色々なトラブルも付き物。そういった問題の原因を追究して、どの過程で齟齬が出て、どう改善していったらよいかといった、トラブルシューティングのコツを学ぶのも大事なことです。実際に PCR 検査を行った後に皆で検査結果を議論しあい、改善点はあったか、検査結果からどういった分析ができるかなど理解を深めることで、今後のプロジェクト研究活動に繋げていきます。



プロジェクトが後半戦に入る今、今回はトレーニングと言いながらも、実際のサンプルを検査する作業を積み重ねながらの学びという形をとりました。プロジェクト期間中は勿論のこと、今後薬剤耐性検査がより普及した際にカウンターパートの検査技師さんたちが検査ニーズに対応できるようになることが、持続可能な発展を願うプロジェクトの目指すところです。